

第12回 応用言語学セミナー

テーマ：「ことばと心：ことばを手がかりとして人間の心または脳の中を探る」

古来から「言語は人間精神の鏡だ」と言われてきました。実際、ことばほど、人間の心あるいは知性について、多くの驚嘆すべき、興味深いことを教えてくれるものはありません。今回の応用言語学セミナーの目的は、言語科学の最新の成果および言語に関わる諸領域の研究成果を手がかりに、人間の心や知性というものについてどこまでも深く考えてみようとすることにあります。そもそも人間が有している言語能力とは何でしょうか、この能力はどのようにして獲得されるのでしょうか、言語能力は人間のもつ他の認知能力といかにかかわるのでしょうか。こういった問題を検討することは、人間を人間たらしめている本質の解明につながると思われれます。さらに注目すべきことは、人間は誰しも、ことばを通じて自己の微妙な思考の世界を表現し、相手の言っていることばを理解する能力を有しているという点です。この言語表現能力・理解能力と言語能力との関係は何かという問題も「人の心や知性」を解明する上で重要な課題となります。本セミナーでは、言語理論、認知語用論（関連性理論）、意味論、言語獲得理論、音韻論、社会言語学、文学研究といった言語に関わる多様な領域の専門家に登場していただき、それぞれの立場から「ことばから見た人間の心または脳の中」について自由に講演していただきます。本セミナーの議論を通して、「言語はいかなる意味で人間精神の鏡であるといえるのか」を究める切り口を見いだすことができるならば、大変うれしく思います。

◆ ご挨拶

応用言語学セミナーは、今年で12回目を迎えます。12という数字は、十二支の1巡目の最後、つまり、締めくくりの亥年に当たります。イノシシのように勢いよく前進するため、今年は、例年とやや趣を変えて、「ことばと心」をテーマにことばと心のあり方を深く追求します。

このテーマは、古くて新しいテーマで、これまで様々な角度から研究がなされております。生成文法においては、かなり前に、チョムスキーが *Language and Mind* で言語と心・脳について論じております。それ以降、言語学では人間の本質の追究の一環として、いくつかの角度から研究が推進されています。

ことばと心というテーマは、あらゆる角度からアプローチすることのできる極めて重要かつ魅力的な問題です。本セミナーではすべての観点からこの魅力的なテーマを論ずることはできません。しかし、日本の有数の研究者による様々な切り口からの議論を堪能して頂きたいと思っております。

ことばと心の本質にどこまで迫れるかは、講師だけでなく参会者の皆さんにかかっています。数多くの方の参加をお待ちしております。

明海大学応用言語学研究科長

原口 庄輔

◆ 開催日：2009年12月12日（土）・13日（日）

◆ 場 所：明海大学浦安キャンパス／講義棟2階 2201教室

◆ 申し込み・問い合わせ先：

参加ご希望の方は、12月8日（火）までに電子メール、FAXまたは葉書で以下の①～⑤を明記下さい。

①住所 ②氏名(ふりがな) ③電話(FAX)番号 ④参加を希望する日 ⑤12日(土)の懇親会参加の可・否

セミナー事務局 TEL: 047-355-5120 FAX: 047-350-5504 Email: meikaiseminar@yahoo.co.jp

住所: 〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目 明海大学

プログラム

12月12日(土) 講演	12月13日(日) 講演
14:30 受付開始	9:30 受付開始
15:00 原口 庄輔 (明海大学外国語学部教授 応用言語学研究科長) 挨拶	10:05-11:15 大津 由紀雄 (慶應義塾大学言語文化研究所教授) 「ことばについて気づくこと、意識すること」
15:05-16:15 渡辺 明 (東京大学大学院 人文社会系研究科准教授) 「言語における数と自然数概念」	11:20-12:30 今井 邦彦 (東京都立大学名誉教授) 「心の理論」
16:20-17:30 松井 智子 (京都大学霊長類研究所准教授) 「コミュニケーションにおける意図の理解 —発達的な視点から」	13:35-14:30 井上 史雄 (明海大学外国語学部教授) 「敬語の心」
17:35-18:45 西山 佑司 (明海大学外国語学部教授) 「心のなかの二つのモジュール： 文法能力と発話解釈能力」	14:35-15:30 市川 桃子 (明海大学外国語学部教授) 「心を表す言葉の発生と展開—腸による表現—」
19:00 懇親会	15:35-16:30 原口 庄輔 (明海大学外国語学部教授 応用言語学研究科長) 「ことばとこころ：相即相入」
	16:30 閉会